

講師 茂木 喜久雄

経済学

経済学答案作成法 1

解法の技

不動産鑑定士経済学を短期間で合格答案作成させるには、

(1) 経済学は、100人の学者がいれば、100通りの「経済学」があるというように、出題傾向が、試験委員の研究分野や経済動向、「流行り」に大きく依存している。したがって、過去問を徹底研究する必要はない。

(例えば、WTO 発足時には、どの試験種もミクロ経済学の「貿易の利益」が出題された。

(2) 国土交通省での研究内容や実際に鑑定士として必要で実際に使われる経済分析スキルが問題になる。これは、公務員試験や会計士試験の「経済学」とはまったく異なる出題傾向が見られる。

(例えば、鑑定士試験では、金融工学や「法と経済学」の絡みから「市場の失敗」の章が多く出題され、マクロに関しては金融政策、金融・資本市場ばかりが論点となる。

(3) 青のボールペンを使用し、きれいな図を書くこと。

(どんなに優れた内容でも、汚い答案は経済学者の多くは読んでくれません！)

(1)、(2)の流れから、合格答案作成には、出題傾向とその分野の経済学の体系の中での位置づけを知り、それを「道具」に、実際の経済を分析できることが課題となる。

(3) は実は重要なんですよ。(笑)

練習を積んで、試験委員に読んでもらいましょう！！

今年度の試験委員の研究テーマと国土交通省や鑑定士業界で発表されている論文などを推測して、出題傾向を考えてみると、

ミクロ経済学

金融工学、ゲーム理論、市場の失敗、期待効用理論、価格効果などが可能性大。

鑑定士では未だ登場していない「ゲーム理論」は今年のヤマです。

私といっしょに学習してみましょう。

出題傾向分析



マクロ経済学

やはり金融市場の1本です！

ただし、金融市場だけを学習しておくのではなく、財市場や労働市場など他の市場と絡めたり、物価や利率などを援用できるようにしておきましょう。

実は今年の国家1種経済職試験で「消費理論」ができました！

鑑定士試験でも、そろそろ「消費理論」が出題される可能性が大きいですね。